

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：34416

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22730174

研究課題名(和文) ヒュームの懐疑主義的啓蒙思想の研究

研究課題名(英文) A study of David Hume as a Sceptical Enlightenment thinker

研究代表者

壽里 竜 (Susato, Ryu)

関西大学・経済学部・教授

研究者番号：20368195

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：当該研究課題は、ヒュームを「懐疑的啓蒙思想家」として捉えなおすことにあった。そのため、彼の懐疑主義を支える想像力についての彼の哲学的考察と位置付けを明らかにし、その社会科学的・政治学的応用である「意見」についてのヒュームの見解を『イングランド史』における展開まで含めて検討した。さらに、彼の宗教・教会論、18世紀末～19世紀初頭におけるヒュームの評価についても調査をした。具体的には、2度の国際学会での報告、および国際査読誌での論文公開をおこなった。さらに、本研究課題の集大成として著書(Hume's Sceptical Enlightenment)の出版契約にいたることができた。

研究成果の概要(英文)：The aim of this project was to place Hume as a Sceptical Enlightenment thinker. In so doing, the significance of his theory of imagination in his social, political, and historical writings was investigated. This analysis also revealed that Hume's theory of imagination was developed in deep connection with Hume's notion of "opinion," which plays a central role in the History of England. Furthermore, this project also dealt with Hume's view of religious establishments and the evaluation of Hume among his contemporaries and later generations. I read the papers related to this project twice in international conferences, and published one paper in an international refereed journal. A final outcome of this project is going to be materialized in a book, Hume's Sceptical Enlightenment.

研究分野：社会思想史

科研費の分科・細目：経済学・経済学説・経済思想

キーワード：ヒューム スコットランド啓蒙 18世紀 啓蒙思想 懐疑主義 社会思想史 知性史

1. 研究開始当初の背景

2000年代に入り、欧米の思想史研究において啓蒙思想が脚光を浴びていた。とりわけ Jonathan Israel による三部作 (*Radical Enlightenment, Enlightenment Contested, Democratic Enlightenment*) は、それに対する批判的な評価も含めて、大きなインパクトを与えたと言える。また、19世紀の帝国主義との対比で、18世紀の啓蒙思想家による植民地支配に対する批判的言説を肯定的に評価しようとする研究なども現れている。こうした研究状況を背景として、ヒューム思想を「懐疑主義的啓蒙」として位置づけることが本研究課題の目的であった。

もうひとつの研究上の背景として、ヒュームという思想家の評価をめぐる問題がある。ヒュームはその(政治的・経済的・宗教的な意味での)自由主義的側面から重要な啓蒙思想家として評価されてきたが、他方で改革に慎重な姿勢、社会契約説批判、『イングランド史』におけるウィッグ主義批判などから、保守主義との親和性が強調されてきた。本研究課題の背景には、こうした分裂したヒューム像があった。

以上、二つの点を総合するにあたり、ヒューム固有の思想について考察するだけでなく、同時に広く啓蒙思想研究における潮流をも踏まえた上で、あらたな啓蒙概念を提示することと、その中にヒュームを位置付けることが求められていた。

2. 研究の目的

本研究は、以上のような研究上の背景を前提としつつ、啓蒙思想家としてのヒュームの特色を、エピキュリアニズムに裏付けられた懐疑主義を基礎とするものとして理解し、「懐疑主義的啓蒙思想 Sceptical Enlightenment」という概念のもとにヒューム思想を統一的に把握するものであった。

本研究はいくつかの分野にまたがっている。第一に、本研究の出発点となるのはヒュームの哲学、とりわけ観念連合理論である。ヨルトンらの研究からも明らかのように、ロックの観念説は生得観念の批判など、明らかに物質主義的傾向を伴っていた。ヒュームはその中でもとりわけラディカルな観念連合理論を『人間本性論』の基礎に据え、ロック以上に人間界の様々な事象をこの理論によって説明しようとしたのである。ただし、研究代表者はここで、現在の哲学研究者が論じているのと同じように、ヒューム哲学や観念連合理論を論じるつもりはない。むしろ、ロックが部分的に展開し、マンデヴィルが称賛し、ハチソンが批判した観念連合理論をヒュームが積極的に採用したことの思想史的意義を明らかにする。ロック流の感覚論は人間の内面世界が外部からの刺激によって構成されていることを含意するという点で、物質主義的である。また、そうして形成された観念が、外部の「現実」とは切り離された形で

様々な複合観念を形成するという観念連合理論は、社会規範の多様性、偶然性を強調する。つまり、ヒュームは観念連合理論を積極的に取り入れることによって、普遍的な法(自然法)やそれを与える神を受け入れないことを示しているのである。また、ヒュームによる社会規範の多様性は、のちの論説や『イングランド史』にも通底している姿勢である。第二に、私的所有を黙約とするヒュームの正義論にも、人間の社会性を基本的に認めず、社会規範の人為性を強調するエピキュリアニズムの刻印が色濃く見出される。この点は、ジェイムズ・ムーア氏の研究を除いて、ほとんど探求されていない未開拓の研究課題であり、研究代表者はこれをモンテスキューとの対比を通じて明らかにする。第三に、エピクロス以来、宗教的権威(迷信)に対する批判も、エピキュリアニズムの特徴である。こうした特徴もヒュームの宗教論の中に色濃く投影されている。初期近代思想における重要なネオ・エピキュリアンであるペイルから、その批判者としてのシャフツベリ、さらにエピキュリアニズムの重要性を再度強調するマンデヴィルと続く流れの中から、ヒュームが宗教批判の言説をどのように構築していったかということも、本研究課題の一部となる。第四に、政治思想における「意見 opinion」の重視など(これも社会規範の多様性、偶然性を強調するエピキュリアニズム的・懐疑主義的議論の一側面である)、同様の視点から論じられるヒュームの議論は数多い。

「5」に示したように、本研究課題名をベースとするタイトルを冠した著書を発表することにより、本研究課題の当初の目的は十分に果たされたと思われる。

3. 研究の方法

研究方法としては、18世紀を中心とした一次文献・二次文献の読解(海外での資料調査を含む)、国際学会での報告、国際学会誌への研究成果の発表(詳細は「4」および「5」で述べる)を主たるものと考えており、実際にその方法にしたがい研究成果を発表した。

また、日本では入手困難な希少な資料を渉猟すべく、2010年8月~9月には、英国スコットランドのグラスゴウ大学において、アダム・スミス・リサーチ・ファウンデーションのリサーチ・フェローとして研究に従事した。この一カ月の集中的な調査・研究活動により、「2」の「研究の目的」で示した課題のうち、とりわけヒュームの観念連合についての調査および論文執筆を行い、同大学教授(現在は名誉教授)のクリストファー・J・ペリー教授からこの点について数多くの有益な示唆を頂戴した。その成果は2011年の Hume Conference において報告した。

なお、本研究課題最終年(2013年)度に、18世紀に英語圏で出版された書物を網羅する ECCO (Eighteenth-century Collection Online I&II) というデータベースが関西大学図書館

に導入され(研究代表者が当該データベースの申請代表者であった) 18世紀の希少な文献へのアクセスが大幅に改善されたことも付記しておく。

4. 研究成果

以下「5」で示すように、二度の国際学会での報告に加え、国内学会でのシンポジウムでの発表を行うなど、国内外において積極的に本研究課題の成果を公表してきた。「2」に示した研究の目的のうち、ヒュームの観念連合理論の社会理論としての意義については Hume Conference (2011、英国エジンバラ)において、「懐疑主義的啓蒙」についてはイギリス哲学学会のシンポジウムにおいて報告した。とりわけ前者については、ヒューム生誕300周年を記念する年に、ヒュームの名を冠する国際学会で発表することができ、世界各国のヒューム研究者と意見交換することができた。本研究は、通常は哲学的な議論として扱われてきた観念連合理論の政治的・イデオロギー的な含意を明らかにするものであり、とくに同時代の批判者たちによって観念連合理論もエピキュリアニズムの一側面とされてきたことを明らかにした。

また、ヒュームの宗教批判については *Journal of the History of Ideas* に論文として発表した。ヒュームは『イングランド史』において国教制度やイギリス国教会を支持するような発言を行っているため、これがヒュームの保守主義の表れであると考えられてきた。しかし本論文では、ヒュームがその他の著作(とりわけ政治的論説)においては宗教批判を続けていたこと、『イングランド史』複数巻の執筆の間にも、他の著書に付した序文等で厳しい聖職者批判を繰り返していたことなどを明らかにすることにより、『イングランド史』における国境や聖職者に対する肯定的とも見える発言が、一種のヒューム特有の皮肉であること(しかも同時代の人びとにはそれが理解されていたこと)を明らかにした。

さらに、ヒュームの正義論におけるエピキュリアニズム的性格については、近刊予定の拙著 *Hume's Sceptical Enlightenment* において論じる予定である(本書は出版社と契約済みであるが、現時点で未刊行のため、「5」の主な発表論文等)には記載しなかった。正義論とエピキュリアニズムについては、すでにジェイムズ・ムーア氏による詳細な研究があるため、本研究では奢侈論や「意見」論の考察を通して、ヒュームが他の代表的な啓蒙思想家たちとどのように異なるのかを明らかにしている。

最後に、「2」の当初の研究目的には含まれていなかったが、18世紀末~19世紀初頭のヒューム評価として Eighteenth-century Scottish Studies Society Annual Meeting (2012、米国ノースカロライナ)において発表を行った。これは、ヒュームの論説「完全な共和国

に関する一案」の同時代(とその直後の時代)における評価を扱った研究である。従来はヒュームの大著『イングランド史』の後代における(トーリーの歴史家)という評価ばかりが強調されてきたが、この論説はトマス・ペイン、リチャード・プライス、メアリ・ウルストンクラフト、ゴドウィンなど、18世紀を代表する急進主義者たちによってたびたび好意的に言及されていたことを明らかにしている。のみならず、19世紀のブリテンにおける選挙改革運動においても、この論説は「穏健な改革路線」の重要な権威として扱われていたことも、史料にもとづいて論証している。とはいえ、この研究については、さらなる文献資料調査が必要であり、今後も調査を継続する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

Ryu Susato, Taming 'the Tyranny of Priests': Hume's Advocacy of Religious Establishments 2012年4月 *Journal of the History of Ideas*, 73: 2 (2012), pp. 273-93 (査読あり)

〔学会発表〕(計3件)

Ryu Susato, Hume as a Friend of Liberty: the Reception of his Perfect Commonwealth, Annual Meeting of the Eighteenth Century Scottish Studies Society (米国) 2012年4月13日

Ryu Susato, The Empire of Imagination: The Association of Ideas in Hume's Social Philosophy, International Hume Conference (英国) 2011年7月19日

壽里 竜「ヒュームの懐疑主義的啓蒙」日本イギリス哲学学会第35回研究大会(京都大学) 2011年3月28日(『イギリス哲学研究』第35号、177-9頁に要旨掲載)

〔図書〕(計1件)

Ryu Susato, *Hume's Sceptical Enlightenment*, Edinburgh University Press, 2015 (in press).

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

壽里 竜 (Susato, Ryu)
関西大学・経済学部・教授
研究者番号：20368195

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：